

令和 6 年度
第 1 回松江市上下水道事業
経営計画推進委員会

議 事 内 容
(概 要)

令和6年度第1回松江市上下水道事業経営計画推進委員会

1. 日時：令和6年11月22日（金） 9：00～12：00

2. 場所：松江市上下水道局 大会議室

3. 出席者

（1）出席委員 松本一郎委員長、大田美穂委員、藤原睦己委員、中村和可子委員

（2）欠席委員 片寄洋子委員、浅田純作委員、利弘健委員

（3）事務局 小塚豊上下水道局長、杉谷雄二部長、桂昭治技監、中西誠次長、古藤義弘次長、石津宏明総務課長、田淵亮検査員、藤間新悟営業課長、吉岡勇治事業推進課長、橋本真維持管理課長、飯野利昭浄配水課長、新田恭周係長、尾添悟司主幹

4. 議 題

（1）議事

1. 第1次松江市上下水道事業経営計画の進行管理について

◇委員会の内容（概要）

議事1 第1次松江市上下水道事業経営計画の進行管理について説明

○松本委員長 それでは、委員の皆様からご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

多岐にわたって色々な経営の計画、そして原価の話が出てきたと思います。どこからでも良いです。どなたからでも結構です。よろしくお願いします。

○大田委員 説明ありがとうございました。被災地出身なので、地震に強いところになれるというのは、国の基準もすごく目標さえも満たしているというはすごく安心な環境であるということと同時に、赤字化も見えてきているというところにすごく危機感を感じています。その中で、こういったパンフレットをすごく若い人たちにも、水道というのは普

段使い過ぎていて、ある意味、逆に存在感が感じられなくなっているレベルのもの、それぐらい安全なものを得られているというところも、このパンフレットですごく分かるというように感じました。12 ページを拝見しますと、この印刷物や動画をつくられたというように伺って、若い方、色々な年代に向けて見られるものだなと思ったのですが、活用としては具体的に、例えば動画はどういったところで見られるのかなとか、動画を見た人がどういうアクションを起こしてほしいのかなとか、そういった活用についてもう少し詳しく伺えるとありがたいです。

○松本委員長 動画関係で何か質問がある方はおられませんか。

○藤原委員 先ほど大田委員さんがおっしゃられたとおり、動画というような形で視覚的に情報が入ってくるというのはすごく大事なと思っていて、こういうパンフレットもすごい目を引きますし、何にしても「ここから始まる松江市水物語」というのはすごく良いタイトルだなと思って見ていました。

 動画がどのような年代に対してアプローチしているものなのか、例えば若い、それこそ就職活動をするような高校生や大学生というような人を対象にしているのか、それとももっと若い世代、これからの松江市を担うような中学生とか小学生とかにも見てほしいのかというところで、少し動画を流すルートが変わってくるのではないかなと感じています。

 もう少し対象とか、どのような形で活用していくのかというところを聞かせていただけたらと思います。

○小塚局長 動画は作成中で今年度中にアップをしていきたいと思っています。まずは就職を考える方々というのが1つの大きなターゲットと考えています。

 実は、このパンフレットも動画も私はタッチしないといっております。

して、このパンフレットについては、「とにかく民間の事業者のお名前もすべて入れましょう」、「松江市内には、こんなに水を守っている業者さんがたくさんありますよ」ということを注文を付けたということ。

それから、「動画についてもこういう方向で」と相談にきたのですが、私よりも若い、今の就職をされる方、あるいは小学生や中学生に年代が近い方にアイデアを出していただくというのが大事だと思っています。

パンフレットについては、実際に就職活動をされる地元の理系の学生さんなど、今年は高専のほうに説明会に行かせていただいて PR をしているという状況です。

それから、ご承知のとおり、松江市では「夢☆未来塾」というのをやっていますので、事業者の皆様方もそういったところに行かれるので、この動画を誰でも使える共通コンテンツとして、すべての事業体に「自分のところの自社の PR として使っていただいても構わない」というように申し上げておりますので、多種多様な形で PR をしていきたいと考えています。効果的な方法があれば、私どもよりも若い方々、あるいは実際にメディアに触れていらっしゃる方々のアイデアを参考にして、広く広げていきたいと思っています。

○松本委員長

ありがとうございます。今、作成中ということですが、それをどのような媒体で伝えて、みなさんが簡単に見られるかというところが大事だと思っています。

1 点、私のほうからみなさんに見せたいものがあります。昨年度、松江市のすべての小学校に、SDGs の DVD として配っています。これは小学 4 年生以上を対象としていて、第 5 話までなのですが、第 4 話目に、子どもたちが水資源のことをテーマにしており、これは YouTube で誰もがみられる状態になっています。今あるコンテンツをより有効に利用するのと、今つくるものも併せて活用してほしいと思います。

○杉谷部長 動画の活用についてですが、実は今現在も市営バスの中にデジタルサイネージという形で、水の安全性とか色々なことをやっています。実際、市営バスで通学されている高校生、あるいは中学生たくさんいらっしゃいますので、そうした中で見ていただけるような形で動画を活用していますが、でき上がった動画についても、そういったところなどでも積極的に発信をしていきたいと考えています。

○松本委員長 ありがとうございます。市内の色々なところに大きなモニターがあって、あの中でも時々流れていますか。

○杉谷部長 そのつながりは分からないのですが、市営バスの中では、40インチぐらいモニターがあって、色々な企業さんのコマーシャルが流れています、その部分の中で一緒にやらせていただいています。

○松本委員長 ありがとうございます。恐らく同じコンテンツを市内にいくつか大きいモニターがありますので、確認して、もしそことつながってなければ、そういったコンテンツも活用していただいて、運転中も信号で止まったときに目につきますので、お願いしたいと思います。

○大田委員 小学生の子どもがいるのですけれども、先ほど先生が見せてくださった動画を、学校で少し見る機会があり、「3 時限目とか書いていたから、ほかのものもあるのかな」と YouTube で探して見ていたのですが、動画は色々なところでものすごく広がりのあるコンテンツだと思うので、色々なところでたくさん目に付くと嬉しいです。

○中村委員 冊子・動画について、携わらせていただきましてありがとうございます。

動画については、年代の近い若いものに任せております。SNS でも発信していくご予定ですが、私もこのパンフレットは担当させていた

だいて、取材をすればするほど、もっともっと伝えたいと思うことがたくさんありまして、本当に当たり前ではないということが分かりました。

メイキングも含めて SNS で発信していくと良いなと思いながら、SNS 発信もどこの SNS をやるのかと、上下水道局は SNS は Facebook ですよ。今の子たちは多分 Instagram とか TikTok とかなので、動画ができればそういったところも上げやすくなると思います。

本当に目から鱗がいくつかあって、その中をご紹介したいのですが、
れども、今、経営者だと肝が冷える、もう倒れてしまいそうな計画で、「それをどう上手に伝えたら良いのだろう」、「なぜこんなにお金かかるの」というところも伝えなければいけないなと思ったことの 1 つが、水道管の工事、一旦土を掘り上げて、もう一回工事が終わったら戻すと思っていたら、その土も新しく購入をされるとか、それだけでも莫大な金額がかかるとか、あと、私たちが普段リサイクルを一生懸命したくて、例えばプラ容器を洗うという行為をするとか、あと、家族の衛生状況を高めるために除菌剤で手を洗うとか、スポンジも除菌しておきたいから強力な洗剤を使ったりしている。それが下水で処理されるときに、私たちが使った水をきれいにしてくれているのは微生物で、その微生物に影響を与えていないかなとか、それをきれいにして、水を海に戻すためにも、様々なところで費用がかかっているとか。そういったことが本当に細かな積み上げがあって、私たちの生活が成り立っていて、更にそこには莫大な費用が必要だということが分かりました。この方々たちのお仕事の誇りといいますか、私たちの生活になくってはならない誇りと同時に、そういった費用もかかっているというところを、メイキングのスタッフとして発信も大事ななと思った次第です。

まだ私も担当者に伝えきれてはいないのですが、そういった視点で発信ができていくと良いのかなというところがありますので、この収支を見ながら、今後こういった発信にどれぐらいの費用がかけられるものなのだろうかとか、そういったところも予算の計画の中でどのよ

うにされているのかなというところを聞かせていただくと良いかなと思います。

○松本委員長 予算に関して、併せて質問することがあれば。

○中村委員 営業外収益の内訳と、今後、営業外収益、本業以外のところと、財産も売ってはおられるのですが、それ以外のところの収益改善をどのように計画されているか。

例えば、矢田配水池とか忌部浄水場も文化財の指定を受けているのでしょうか。そういった文化財としての活用をして収益につなげるご計画があるのかとか、本業以外のところの収益の計画についてもお尋ねしたいなと思います。

○中西次長 まず、営業外収益ですが、この中身としては、一番大きなものとして長期前受金戻入益があります。

これは施設をつくるにあたって、つくると減価償却費という形で翌年度以降、費用化をしていく必要がありますが、工事に対して入ってきた国の補助金とか、一般会計からの繰入金とか、そういった財源も同じように減価償却に併せて収益化をするという会計ルールがあります。これはお金が入ってくるわけではなくて、単純に収益化するだけ。そういったところが大きく、約 5 年度で 15 億円ある営業外収益のうち、5 億円がこの長期前受金戻入益となっています。

それから、松江市においては、修繕を行うときに、過去に積み立てておいた引当金を使うときに、その引当金を取り崩した戻入益というものがあって、これも退職金を払うときの引当金を取り崩すもの、そういったものが約 3 億円ぐらいあります。

それから、一般会計から繰り入れてもらうお金というのがあり、これが色々積み重なると 7 億円程度ありますが、この中に簡易水道に対して、統合後に一番ピークで約 2 億 9,000 万円あった繰入金が、8 年度までに全部 0 になるというような状況です。

○小塚局長

中村委員がおっしゃるような、ほかで儲けいくということがない事業です。例えば発電事業をすとか、あるいは下水道において廃熱を使って発電をやったりとか、あるいは肥料化をしたりとかは、例えば流域の処理場みたいな大きなものを持っていればそういったことをやっていくことも可能なのですが、松江市の場合には約 87%流域の処理場で処理をしている。それは県の事業でございます。

あと、小さな農業集落排水、100 戸とか 200 戸ぐらいの汚水を集めてやっている、そういったロットではなかなかそのような発電ができるのかとか、あるいはそういった儲けにつながるものはないわけですし、太陽光なども売電をしています、それは自家消費という形でそれほど大きな額にはなっていませんので、収入という形では上がっておりません。

したがって、松江市の場合には、ほぼ 80%以上が県営事業との連動の中で、その末端部分を我々がやっているということですので、大きな取り組みはありません。

それから、尾原ダムについて、今、県が尾原ダムで水力で発電をしていくという、いわゆるハイブリッド化をしていくという構想があって、それに対して手を挙げていこうかと。国の国営事業でもございますので、尾原ダムについては。そういったところが進んでおりまして、そうならば受水費の中で発電をした収入も入れることができるので、少しは費用が下がってくるという方向で検討をされているというように伺っています。

○中村委員

ありがとうございます。何とかして儲けを出さないとという頭で、色々アイデアを考えたいと思います。

○松本委員長

私も関連して、予算のことについては、ウォーターPPP、官民連携という日本語を使えと言っているのですけれども、ウォーターPPPで委員のみなさんはまた調べ直したりしていたのではないのでしょうか。

そういう分かりやすい言葉というのが1つあるのですが、それは置いておいて、国の厚生労働省辺りは、みなさんこういう委員会で審議をしてもらって、基本方針として、ヒト、モノ、カネに関する課題を示すと35ページに書いていますよね。こういうことを聞いています、ほかの事業でも。つまり、都会と違って私たちが抱える問題はたくさんあるので、そういう地域の事情をしっかりと課題を出して、今、予算でこれだけ赤になるというのが見込まれているけれども、この部分についてはきちんと国の施策として、この中にも盛り込まれていますよね、国に進言すると。ですから、積極的に事情として出していく必要はあるので、そこはよろしくお願ひしたいと思います。

あと、減価償却の問題もありますけれども、よりコストを下げる。これは安かろう悪かろうになっては元も子もなくて、例えば土を掘って新たに入れるということもありますが、耐震だとか、色々な土壌汚染防止法だとか、土に関する問題があつて、それをそのまま埋め戻すと良いのですが、それが液状化につながったりもするので、その辺り、掘って捨てて処理して新しいものをということもあろうと思うのですが、しっかりと現場でリサイクル、最近はそういう施策も出てきているので、しっかりと現場でリサイクルできるものはリサイクル、新しいものとミックスして入れなくてはいけないと思うのですが、そういう努力も色々なところでしてほしいなと思いました。

予算のところでは、ほかの都市も全く同じ状況なのです。例えば都会はもっとすごいことを抱えているところもあつて、令和11年、その2か年は結構大変だと。恐らく同じ問題を抱えているので、同じ人口を抱える都市もそうですけれども、大きな都市とか小さな都市も連携して、国に施策方針などを訴えてほしいなと思います。これはコメントです。何かそうだとか、ここが違うということがあれば加えてほしいと思います。

○小塚局長

全国的にこういう状況というのはおっしゃるとおりでして、島根県内においては、津和野町さんが40%以上の料金値上げをすると。40%

上げても赤字の半分しか解消しない。数千人が山間僻地に住んでいて、大きな事業所もない。一般家庭に水を送って、1世帯当たり3万、4万ぐらい。それが1,000戸集まってもたかが知れている。それで資産をどれだけ持っているのかということが現実でございます。

国は「それを打破するために簡易水道を上水道に統合しなさい」、その次は、「都道府県単位で1つの水道事業体にして、小さいところを救いなさい」と言っています。

私も去年、総務省の課長補佐をここにお呼びして研修会を開かせていただきましたが、「都道府県単位で統合したあと、それでもなおかつ経営がもたなかったら、国はどうしていただけるのでしょうか」というお話を正直に言わせていただきましたが、全く回答・コメントなしということでございます。

今60万人という人口は、これも加速度的に減っていくことが目に見えています。これだけ全県広く、隠岐諸島も抱えている中で、費用対効果が発揮できるわけがない。水源もすべて違いますし、斐伊川水系や江の川水系や高津川の水系とか様々あって、水源も1つにできない。広域的な処理もできない中で、基礎的なインフラである当たり前の水道が、「過疎地が非常に高く、人口集積地は非常に高いというのは、それはナショナルミニマムとしておかしい話ではないか。セーフティーネットとしておかしい話ではないか。将来的にそこまで考えていただきたい」ということは申し上げているところでございますが、我々としては、できる効率化・合理化を国の指針に従って、それに地域事情を上手くミックスさせて、有利なお金を国から取ってくるというのが最大の経営合理化だというように思っておりますので、ウォーターPPP、水道分野における官民連携手法ということでございますけれども、そういったものもいっぺんに手を挙げて、ただ、地元の事業者が困らないような形で、地元主導のファイナンスも含めた形の中で1つの経営母体というのを、公である上下水道局だけではなくて、松江市内の上下水道事業全体でいかにして守っていくのかという視点から検討を進めていくということにしております。

それについても毎年数回にわたって国土交通省、あるいは総務省、それから地元選出の国会議員には要望活動を行っているところがございます。ただ、そういった実態が市民のみなさんに分かっていない、あるいは先ほど言いましたが、広域化の議論が何一つこの経営推進委員会の皆様にも分かっていない。これは県のほうにも言っているのですけれども、「議論を公表してください、公開してください」と。それから、「首長レベルの協議会にしてください」と強く要望しておりますが、県がなかなか頑としてそれを受け入れていただいていないというのが実態でございます。私どもとしては、松江市選出の県議会議員さんにも情報を共有化しながら、県議会でも強く追求をしていただくというような方向性も含めて、様々なことは考えておりますが、なかなか生々したことを全部書ききれないものですから、そういった活動もしているということをご理解をいただいて、一緒にお知恵を拝借しながら、みなさんにいかにオープンにしながら、市民全体の議論として上下水道をどうしていくのかということの方向性を共有化させていただきたいというように思っております。

○松本委員長

ありがとうございます。今、小塚局長言われたのが肝だと思っています。施策がこうだからということもあるのですが、その施策を変えられる余地がここに書かれているので、例えば、ウォーターPPPを見ていると10年の契約と書いてあるけれども、入札の不調だとか、地域が持っている地元業者さん、地産地消でここに落として、この技術力を上げるためには、やはりその辺りの手立て。大きな都市は、スケールメリットで人数も多いので、少し上げれば、言葉が少し違っているかもしれませんが、非常に金額的にも違います。その辺りは、多分新しい政府の体制になって、総理大臣も鳥取の方なので、地方創生を訴えているので、これを追い風にして訴えていく必要があると強く感じます。

それでは、ほかに。この冊子を見られて、どこでも良いのでご意見・ご質問をお願いします。

○中西次長

その前に、広告のことで少し補足をさせてください。今、水道事業で行っている広告で主なものとしたら、年に数回、検針をしたときに一緒に配る小さいパンフレット、せせらぎというものがあるのですけれども、こういったものと、あとはバスのデジタルサイネージ、それから水源の森をつくるという事業とか、そういった事業を中心に、広告費としては令和5年度ベースで約400万円ぐらいの費用をかけております。

中村委員さんが言われるように、動画コンテンツは何が一番有効な動画サイトなのかとか、そういったところが詳しくないもので、もしあれば、例えば「YouTubeが一番だよ」とか、またアドバイスしていただければ、それにどれぐらいお金がかかるのかとか、そういったところを検討しながら、次期以降の予算等に反映していく必要があるのかなと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

○小塚局長

あと、市があれだけのSNSを持っているのだから、そこも有効に活用して、上下水道局単体でやって閲覧数がどれだけあるのかという問題があって、いかに目に触れるかという問題がありますので、そちらのほうも市と協議をしていきたいということと、それから、なかなかSNSを管理すると、それだけの人員が必要になります。残念ながら、今、事務系の職員というのをできるだけコンパクトにまとめていこうという頭を持っていまして、なかなかそこまで手が回っていないというのが現状ですが、今、人材の確保という問題でも、市役所の採用試験をやっても、事務系の職員すら倍率が2倍程度とか、あるいは技術系の職員は募集をかけても応募していただけないということが現実になってきておりまして、なかなか優秀な人材が確保できていないというのと、私どもの職員の平均年齢が50歳を超えてしまっておりまして、なかなか新しいものに対応ができないので、市との人事交流の中でそういったコンテンツに詳しい方々とか、あるいはそういった経験を持った方々についても私どものほうから要望させていただいて、

一旦つくればそれを管理していくという必要がございますので、そういった観点から豊富化、あるいは充実をやっていきたいというように思っております。

○藤原委員

今、SNS での広報というようなお話があったのですが、実際に松江市のほうでも色々な SNS のアカウントがたくさんあって、松江市のアカウントもあれば、市長さんが発信されているアカウントもあったり、それぞれの協議会だったり外郭団体のアカウントもあって、どれもたくさん見て追うようにはしているのですけれども、「この話は結構良い話なのに、ここでしかないんだ」みたいなところもあったりするのが実情で、恐らく市のほうとしても、以前に「SNS の運用について専門的な知識を持たれた方を入れてやっております」というようにはおっしゃっておられたのですが、やはり規模も大きいですし、なかなか手が回らないという現状もあるのかなというようには思っています。

ただ、どのように発信するかというところで、上下水道の水物語もそうですし、進行管理についてもすごく分かりやすいところも多いので、発信すれば恐らく多くの人に分かっていただけるものではないのかなというように感じています。

例えば松江市のほうの SNS での発信であったり、また、こういう進行管理についても、これだけでも分かりやすいので、もっとこういうものを公表していますというところを分かりやすくしていけたら良いのかなというように思っています。

媒体というところでは、やはり今どき Instagram が一番良いのかなというように思っています、大体の県の若者にリーチするような就職支援の雇用政策課とかのほうでも、大体 SNS の Instagram での広告を打ったりするというのが大体いつものことというように伺っているので、そういうところが最近が一番メジャーなのかなと感じています。

○松本委員長 ありがとうございます。藤原委員はじめ、みなさんやはり国民・市民の意識で、価格は日本全国すべて上がると思います。すでに上がっているところもありますし、ですから、やはり SNS を使った情報発信だとか、コンテンツづくり、SDGs も水資源、世界的に訴えています。

日本は、松江市もそうなのですから、当たり前になっていますよね。自分が使う水が一体どこから来て、どうマネジメントされているのか。これまでは国や県の大きな補助というものがあつたけれども、今後はというところで、逆に市民・国民に投げ返すということを松江市は積極的にやられれば良いかなと思っています。

ほかの先進事例として、市民がある程度納得して勉強して、この金額を書いて、すべて納得とはいかないと思いますが、そういう道筋を示していくのが良いのかなと思いました。

○中村委員 矢田の配水池を詳しく伺っても良いですか。

まず、場所が私もすぐに浮かばないと、あと、文化財調査とあつたので、どういう文化財調査だったのかということと、あとは、15 年度に解体のご予定ではあるのですが、何かしら耐震が叶えばとか、工事費もかかりますが、何かほかの用途、本来の目的以外の用途にお使いになる計画があるとか、計画はないのだけれども、本当は壊さずに使いたいとか、そういったご要望があるかどうか教えてもらってもよろしいでしょうか。

○杉谷部長 矢田配水池の場所ですが、内陸工業団地の南消防署の西側、山陰道の南側の細い道を上がっていくと、標高 60m ぐらいのところにあります。矢田配水池は昭和 45 年に築造したものです。

タンクの大きさはプレストレストコンクリート製の 6,000 m³ 入る円形のタンクですが、これがかなり老朽化をしてきているということで、今更新をして、併せて耐震化も図っていくというものになります。

先ほどありました元々あるタンクなどを有効に使えないかというこ

とですが、これはコンクリート構造物で、放置すると非常に危険性もありますので、私どもとしては新しいものができれば、それを解体して撤去していきたいというように考えております。

併せて、先ほど古墳の関係、文化財調査ということがございました。ここがちょうど古墳群の中にありまして、それがあつたために古墳の状況などをトレンチ調査も含めて全体の調査をさせていただきました。その結果としては、特に何かそのまま残すというようなものではなく、記録保存で対応できるということでしたので、その部分については、私どもの用地の中で新たに作り替えることが可能かというように考えているところです。

○中村委員

ありがとうございました。本当に素人考えで、最近、魚の陸上養殖とかあったり、あとはボルダリングとかが流行っているから、何かほかのものに変えて活用できないか、もし収益とかが上がるようなものになればなど。ここに限らずですが、それには今度は改築費や維持費、管理費がかかっていくので、そう簡単な問題ではないですが、今は魚もやがて獲れなくなる、食べられなくなるというような課題がある中で、何とか大きな視点を見てできないかなと思った次第でした。

続いで申し訳ございません。忌部浄水場も何年か振りに参りましたら、文化庁の登録有形文化財の指定を受けているというところも初めて知りまして、ここもインフラがお好きな方に対してツアーを組んでみたりとかもできないのかなと思ったりもしました。

もう1つ。参考になればですが、名古屋市上下水道局で「名水パートナー」というのを持っておられて、これは「名水フレンドシップ」というのでやっておられるのですが、地元の企業さんだったり、あとは小学校とか一般の市民も巻き込んでお水のPRをしようというようなことをなさっているの、私も詳しくどういう活動かというのが分かり切っていないので、また機会があれば、名古屋の「名水パートナー」というものなので、また参考になって取り入れられることがあれば良いなと思いました。

○松本委員長

ありがとうございます。私も関連して少しだけ。収益を微々たるものかもしれないけれども、それは大事だと思っています。要するに努力を市民に見てもらう。プラス、今、ウェルビーイングというのがキーワードになっていて、この町、この村、この都市に住んでいて、とても良いなということを伝えなくてはいけない。

松江市は、このイラストをつくるときも議論したのですけれども、水の都なのです。ほかの都市に比べて数値が格段に良い部分がありますよね。こういう部分がなかなか伝え切っていない。ある人たちは「水道料金が高い」とか言っている人もおられます。そういう意見というのは、なかなか私たちの実情をあまり知らないでしゃべっているのかなと思います。ですから、収益を得るということもそうなのですから、プラス、例えば今、文化財の話があります。この表紙の建物の裏にほんの少し小さなものがありますよね。そういうものを活用したり、学びの場だとか、市民がとても心地良く感じるような水資源の勉強の場だとか、その勉強の場にプラスして、何か心地良い空間なのか何なのか、そこを委員のみなさんの知恵、そしてみなさんの知恵を出してつくっていかないといけない。

私たちも含めて、意識改革が担当する職員の皆さんにも必要かなと思っています。それは当たり前のように思っているのは市民だけではなくて、私たちも「水はいるよね」、「これまでずっとやってきて、国からお金が来るよね」と。これまではそうかもしれないけれども、今後、こういう国の政策になっているので、市民と一緒に学び直しというか、発信することが必要かなと思います。具体的にどうこうは言えないのですが、そう感じました。

それから1つだけ。総務大臣賞。これはすごいですね。市民は知らないと思います。つまり、そういう知らないこと、「こういうことが褒められたよ」とか、例えば、これまでメーカー色を出すのに5億円かかっていたものが3,000万円に落ちる。これはすごいことですよね。そういう経営努力のこと、そして褒められたこと、そういうことも伝

えていったら良いのかなと思いました。

○藤原委員

すいません、たびたび出てきているウォーターPPPについて、少し不勉強なところもあって聞き漏らしもあるかもしれないのですが、改めてご質問させていただけたらと思います。

17 ページのところに令和 9 年度以降の污水管の更新について、支援に関して要件化されているというように書いてありまして、22 ページのウォーターPPP の導入についてというところで、令和 6 年度から導入検討業務を実施しておられるということだと思うのですが、まず 1 つ目に、ウォーターPPP、ざっくり自分で調べた感じ、長期契約をしながら民間と一緒にやってみようねという制度というか仕組みなのか、それとも 1 件 1 件その事業ごとに民間を巻き込んでやってみようねということなのか、それとも全体において官民でやってみようねということなのか、少し教えていただけたらと思います。

○小塚局長

ウォーターPPP、ここに書いてありますが、水の分野における維持管理更新一体マネジメント方式というのですが、最終的に国が言っているのは、コンセッション方式という料金の収受から、事業全体を民間さんの、要は何とか水道株式会社みたいなものをつくって、そこで全部民間に任せましょうと。ただ、料金の設定等について議会の関与等を残しましょうという形です。

日本の中でいうと、例えば高速道路の一部だとか、そういった形に当たるかなというようには思っていますが、水道・下水道分野においては、宮城県の用水供給事業、工業用水供給事業、それから流域下水道事業というのがコンセッション方式に移行しておりますし、浜松市の下水道の処理場・ポンプ場などの維持管理、改築などもコンセッションでやっているというように伺っています。

これについては、ただ、そこまで一気にいかないのが、地域実情という問題があって、国交省のほうは、その手前のこの表でいうところ

の真ん中のところ、レベル 3.5、長期契約 10 年、それから性能発注というのは、「こういう処理場をつくってください」とか、「ポンプ場をつくってください」という条件だけを提示して、どういうやり方をするのかというのは民間にお任せをします。今は仕様発注といって、細かい「こういうポンプ能力のこういうものをする事」みたいなことが細かくうたってあるのですが、それをもっとざっくりと、そこで民間のアイデアも入るのではないかと、コストダウンが図れるのではないかとというのが 1 つ。

それから、併せて維持管理。今の下水道の処理場の運転管理ですとか、あるいは修繕ですとか、そういったものも含めて 1 つの契約の中でやっていこうということで、そのパターンの中で更新実施型というのと更新支援型というのがあります。

更新実施型というのは、更新工事等についてもすべて、このマネジメントの会社みたいなをつくるのですけれども、そこで全部やってくださいという形です。更新支援型というのは、更新計画案とかコンストラクションマネジメントと書いてありますが、そういったものについてはつくってもらえるのですけれども、発注そのものは市で発注をさせていただくという制度で、多くの自治体が更新支援型、地域実情に応じて、民間のある特定の会社が代表会社みたいになるパターンが多いのですけれども、その恣意的な良い子悪い子をつくって、「うちの言うことを聞け」とか、「もっとダンピングしろ」というようなことがないように、今、市の場合には、きちんとした公表した入札制度がございますので、そういったものを担保しながら、地元の民間企業さんへの影響をものすごく少なくする形で進んでいきたい。今の形をできるだけ崩さずに国が言っているマネジメント方式に体を合わせていきたいというように思っています。

今は、例えば包括委託とかという形で、うちも徴収窓口、収納窓口はすべて包括委託をしているのですけれども、そこはごく一部です。

それから、短期契約、仕様発注ということで、うちが細かく指示をした形のものをやってくださいというように言っているのですが、そ

れがより民間の発想とかやり方を導入することが可能になると。良いところもあれば悪いところもある制度ですが、今、これをなぜやらなければいけないのかというのは、先ほど言ったヒト、モノ、カネという問題で、ヒトが職員数も少なくなる。そこに従事する職員数も少なくなる。モノは老朽化をしていく。カネは人口減少によって収入がどんどん少なくなっていく。これを解消するためにいかにやるのか。公が全部やるのか、あるいは民間さんでウェイトをそちらのほうにシフトをして、少しやんわりとしたというか、フレキシブルな形で事業を進めていくのかということが要因となってやっていますが、このやり方は非常に小さいところには向いていない制度だということ。要は、儲けしろが少ないので、民間が参入してこない可能性が高いということ。

それから、先般、大手の設計会社の社長さんとお話をしたのですが、「ウォーターPPPを全国でやられても、我々も人手がありません」と。計画設計をして、それに関与して人も派遣をしていくというようなスキームにどうしてもなっていくので、中央のそういった設計会社の協会さんのほうも「なかなか難しいよね」ということで、国土交通省と今、意見交換も始めますというような情報も得ておりまして、最初は「10年経ったらコンセッションに移行すること」というように書いてあったのですが、説明会をするごとにだんだん柔らかくなっていて、「コンセッションも視野に」というようなやんわりとした書き方に変わってきております。

我々としても、中国地方整備局などを通じたり、国交省に直接、「やはり地方におけるこのやり方というのは非常に無理があるので、柔軟にやっていただきたい」ということ、それから「地域の事業体が疲弊しないような形のものを施行していただきたい」ということの見解は申し上げているところでございます。

抽象的な話になって申し訳ないのですけれども、全体を民間の知恵を借りて、そこである程度自由な発想で事業を進めていくということの制度というようにご理解いただければと思っております。

○藤原委員 ありがとうございます。局長さんのお話の中で、「今、民間のほうも人手がいないんですよ」というようなお話もあって、昨年度のこの委員会の中で、「民間のほうの人材育成も水道局さんと一緒に」というような話で、一緒に事業をされているというようなお話もあったので、やはりどのような課題感があるのかということについてもご教示いただけたので良かったと思います。ありがとうございます。

○松本委員長 ありがとうございます。非常に重要な視点ですね。民間といっても、中央から来てお金・技術が中央のものになってしまうと、地域の創生に大きなブレーキがかかるのです。それは国も分かっているので色々なトーンダウンにつながっている。

 ほか何かありますでしょうか。

○大田委員 すごく今日のお話も聞いて、実はすごいみたいな点がたくさんあるなと思いました。水道の施設にも、実はすごく古く素敵なものだったりとか、文化財があったりですとか、昨年度のお話では、くにびき大橋の下に下水のパイプが通っているとか、宍道湖の下に大きい給水のパイプが通っているみたいな、ちょっとしたトリビア的なものもあったりとか、若い方にすごく響く、若いというか子どもにすごく興味を持っていただけるようなコンテンツがいっぱいあるなというのと、今日もお話ししたような「こんな方々が関わっているんだな」という職業図鑑みたいなものがあったりとか、すごくとても魅力的な点がいっぱいあるので、それをどうつなげていくかなというのを一生懸命考えていたのですが、今日、資料の一番最後に SDGs の項目があって、SDGs は子どもたちはすごく関心があるなというように感じています。松本先生が色々なところで教室もされてたりとかするので、SDGs のリテラシーというのが比較的高いのかなという感覚が子どもたちはありまして、その末尾にあるこの指標、私も勉強不足で、これが一般的な自治体ですとか、そこと比べて高いものであるのかどうか、

これも松本先生に質問なのですが、教えていただけるとありがたいです。

○松本委員長 実は SDGs 未来都市という制度があつて、島根県では松江市、鳥取県では鳥取市や日南町。その地方自治体はこういう表を基にうちは進めるということをやっているのです、SDGs 未来都市に選定された、県も指定されているところがあるのですが、そこは大体こういうスタンダードを持ってやっています。

ただ、発信というところでは、行政は隣近所を見渡すので、スタンダードになって良いなという反面、少し形骸化している。形骸化というのは、市民に届きにくいというのがあるのかなと。

SDGs は 17 の目標の下に 169 の具体的な数値目標があつて、指標というものも用意されているのです。この指標でもって進捗率を判断してください。ですから、具体的な数字がある指標については、このターゲット、9.1 とかあります。今日私が話すのは、11.4、自然遺産・文化遺産を強力に保護する。今見ると 11.4 がないな。先ほど文化遺産ということがあったので、要するに私たちがこの水資源、命の水をキープしてきたというところにあつて、やはりこれまでの蓄積だとか誇りというのは 11.4 で入れるべきだな。精査するといくつか出てくると思います。ですから、こういう方法で合っているのですが、要するにこの委員会の中なのでこれで良いのですけれども、市民に届けるときには、より具体的に、分かりやすい言葉。我々は機械室にいるのです。今、水をマネジメントする機械室にいて、機械の一つひとつの部品がどうかとやっているのですけれども、市民の人は機械室はあまり見なくても良い。ただ快適に使えているかどうかというところのこの 169 のターゲットのうち、市民に届きやすいやつをピックアップして届けるというアナウンスメントが良いと思います。

小学校は教科書で SDGs を習うようになっているので、大人は習っていないですね。ですから意識が高いです。特に今年は、高校生に向けて「SDGs クエスト未来甲子園」というのを初めて取り組んでい

て、そういうところにも高校の校長先生には、昨日、すべての島根県の校長先生にそういうメールを出したりしています。ですから、教育については若い世代に力を入れるようにしているのですが、あとは私たちですね。市民にどう届けるかということになろうかと思います。回りくどく言いましたが、こういうスタイルで OK なのと、より分かりやすく市民に届けるのが良いのかなという感じです。

○大田委員

ありがとうございます。また魅力的な伝えるべき点が1つ増えたなという感じがして。

私、個人的にこの前、一昨日くらいに大橋川の動画を撮って、「松江ってきれいだな」、「水の都だな」と上げたら、結構すごく反応をいただいて、ですから、例えば川の横を歩いていて嫌な臭いがしないとか、松江だと当然なことも、すごくほかの自治体からすると衝撃的なこともあったりするので、やはり当たり前を見直してどんどん発信して、それを点だけではなくてつなげていくみたいな、市民の中で「松江の水ってやっぱり良いよね」みたいなところが1つ見えてくると良いなと。SDGsの指標も使ってどんどん伝えていきたいなと改めて思いました。

○中村委員

みなさんの対話を聞きながら1つアイデアが浮かんだのですが、例えば上下水道局もインターンシップを受け入れていらっしゃるでしょうか。こういった発信も大事な業務ということで、インターンシップの中でそういった発信業務を毎年1つなさるとか、そうすると、やがての就職にもつながるかもしれないですし、発信も両方できてWIN-WINになるかなと思いました。

少し余談になるのですが、今ちょうど観光庁の事業で、水をテーマにした動画もインバウンド向けにつくっているのですが、今、私たちが伝統文化としてお酒だとか、色々な「THE 日本」みたいな、和紙を漉いているシーンとか、すべて水が関わっているのですが、100年後を見たときに、今の私たちの生活の中もきっと水文化が

あるなというところも、今、先生がおっしゃった 11.4 と絡めて、少し視点を変えて発信していくというのも、未来に向けての文化財みたいな感じでできるなと思いましたので、またその辺りもアイデアを沸かせておきたいと思います。ありがとうございます。

○中村委員 前、マンホールの PR をされておられましたよね。

○大田委員 していました。今日もいっぱい並んでいたの撮っていいかなと。

○小塚局長 合併 20 周年も来年あって、去年、供用開始 40 年を過ぎたので、デザインマンホールの募集をしたのです。松江城があつて。それを駅からお城までの LG ルート 20 箇所ぐらいに置いて、そこに QR コードを入れて各コンテンツにつなぐというような仕掛けをさせていただいて、それに今後統一していくので、以前、町村でつくったものをアーカイブとして残して、あれは元々カラーリングされたものではなくて、今回カラーリングをしております、実は国のほうからも「マンホールサミットというのをやってみないか」と言われているのですけれども、今年は富山でやって、12 回ぐらいやられて、全国からマンホーラーと言われる人たちがたくさん来るのですけれども、若干予算がかかるので今検討中なののですけれども、せっかくそういうものがあるので、カラーリングしたらすごくきれいで、これは残すべきだなと思って、とりあえずここで展示をしている状況です。またお帰りに見ていただいて、1 階にもありますし、2 階もありますので、ぜひともよろしくお願ひしたいと思います。

○松本委員長 マンホールでいうと、群馬辺りではイニシャル D という車のアニメのマンホールがあつて、あれをいくつかついたり、隣の県ではコナンはなっていましたか。

○小塚局長 松江市はガンダムマンホール、それから島根スサノオマジックのマ

○中村委員 Facebook にマンホール趣味の会といって、約 9,000 人を超える人たちが加盟しているグループがあって、日々全国のマンホールがアップされていて、なぜか私もこれがしょっちゅう出てくるのです。

○小塚局長 マンホールカードは全国で 1,000 種類以上あるのではないかと
 言われております。また集めてみてください。無料で必ず 1 枚は差し上げ
 ることになっているので。

○中村委員 忌部浄水場や床几山配水池など発信すべき魅力的なものがいっぱいありますよね。

…………意見なし…………

それでは、本日の議事については以上となります。

なお、この委員会が終了したあとでも追加質問等がありましたら、事務局のほうまで連絡いただければと思います。

次回の開催は事務局で日程調整をしていただく予定ですよね。よろしくお願いします。日程が決まりましたら、事務局から委員の皆様にご案内をお願いします。

それでは、以上をもちまして、すべての議事について終了いたします。